

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月24日～

先週、バッセント財務長官は突然、米国債の買戻しを増額すると発表しました。

これは、米国の長期金利が上昇し続けているため、金利上昇をおさえる手段に出たということです。

国債を買い支えることで金利上昇をおさえる手法は、日本でも日銀が日本国債を大量に買うことで長期金利が上がらないように調整していた時期がありました。

一時的には効果があるとされていますが、どうなっていくのか今後の動きを注視したいです。

通常は、中央銀行であるFRBが長期債を買い戻して、短期債の発行を増やすなどのツイスト・オペと呼ばれるやり方をするのですが今回はFRBではなく財務省が動いています。

日本も米国も中央銀行と政府の動きに少しズレがあるように見えます。

日本は金利を上げたい日銀と上げたくない高市政権。

米国はインフレ抑制などから金利上昇を容認姿勢のFRBと早く利下げに動きたいトランプ大統領。

先行き不透明感と通貨や国債への信用低下から金(ゴールド)やビットコインなどの仮想通貨が先週は大きく上昇しました。

ドル/円は介入警戒感もあり、円安の勢いは弱まり、160円を回復できずに上値の重い動きとなっています。

今週は、ジャクソンホールで中央銀行トップが集まる経済政策シンポジウムがあります。

28日のウォーシュ・FRB 議長の講演に注目が集まっています。

また、雇用統計の年次改定(暫定値)の公表もあります。

これは、前年4月～今年3月の雇用者数のデータ(サンプル調査を元にした推計値)の暫定値(正確な全数調査のデータに修正した値)を発表するもので、修正が大きくなると金融政策へ影響することと考えられます。

為替市場にも動きがでるかもしれないので、ポジション管理に注意したいです。

そして、中東問題は解決の糸口が見つからず、アラブ首長国連邦(UAE)はイランに対して商業取引・金融取引を一時停止しました。

イラン企業が国際決済に重用していたドバイの金融インフラが利用できなくなり、貿易も停止しているようです。

イランはUAEから大量に輸入しているためイランにとっては大きな打撃になりそうです。

米国はイランに対し、壊滅的な経済作戦を宣言しましたが内容は不明です。

そして、カナダと米国の関税交渉は決裂し、米国はカナダの一部製品に50%の追加関税を課しました。これに対し、カナダも9月8日より報復関税を課すと言っています。

交渉が今後も継続されるのかは不明で、カナダドルにとっては波乱要因となりそうです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週は、週初めには160円手前まで円安が進行しましたが、その後158円まで急落。

159円あたりでマーケットは終わっています。

週足で見ると4月後半の139円台を起点とした上昇トレンドは8月初めの急落で一度崩れた形となっています。160円台を明確に超えてくると中長期的にも上昇トレンドを回復した形になっていくので、161円あたりまで上昇してくるかどうか注目したいです。

上値は160円を超えると160.8円あたりがターゲットとして意識されそうです。

下値は158.6円を下回ると先週安値の158円あたりのサポートが重要です。

158円を割り込むと156.6円あたりまで下落するリスクがあるので注意したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は先週上昇しているペアが多く、ほとんどのペアで急落前の7月後半の水準あたりまで戻してきました。

もう一段高の可能性はありますが、あまり高値を買うのは危険なので慎重に取引したいです。

南アフリカランドは、貴金属の上昇が追い風になっているのか7月の初めにつけた高値に迫る勢いです。10円を超えていけば、2014年につけた高値の10.8円あたりが視野に入ってきます。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月東京都都区消費者物価指数などがあります。

米国では6月ケース・シラー米住宅価格指数、8月リッチモンド連銀製造業指数、7月新築住宅販売件数、8月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、7月個人消費支出(PCEデフレーター)、7月耐久財受注、4-6月期GDP(改定値)、前週分新規失業保険申請件数、8月シカゴ購買部協会景気指数、8月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。

欧州ではドイツで4-6月期GDP(改定値)、8月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで7月消費者物価指数、カナダで4-6月期GDP、6月GDPの発表などがあります。